

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地
TEL&FAX : 0595 (21) 8839 E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp



研修講座 C-1 郷土教育 を実施しました！ 【講師】伊賀市教育委員会 文化財課 課長 笠井 賢治さん



6月2日(火)に研修講座「郷土教育」を実施しました。笠井課長より「使い方というよりは、掲載してある内容を話した方がおもしろい」ということで、新しくデジタル版に改訂された郷土教育教材「伊賀のこと」のページを見ながら、ご講義いただきました。講義の中で笠井課長は何度も「伊賀はすごい！」と話されました。その理由は「『教科書に出てくるようなものがこの伊賀にもある』と子どもたちに言えるところ」です。これは「子どもたちの興味を引く」きっかけになるかもしれません。旧丸山中付近・服部町・青山地域で弥生土器や縄文土器が発掘されていること、三重県で最大の古墳があること、三重県最古のお寺があること等から、古代から伊賀は大和や京都の影響を受け、人々との交流の場・お金や物の物流の場であったと考えられることなど、大変興味深い内容を教えていただきました。

講義の後半には、今回の改訂で新たに「伊賀のこと」に加えられた資料についてのお話がありました。ここでは「伊賀水平社」についての笠井課長の言葉を紹介します。「その当時、既に差別と闘おうとして活動してきた人々がいた。それは誇るべきことである。それを載せなくてはとずっと思っていた。子どもたちに誇るべき歴史として伝えていきたい」とお話しされました。

デジタル版「伊賀のこと」は、デジタルミュージアム「秘蔵の国 伊賀」から、または、児童生徒の端末では L-Gate から見る事ができます。受講された先生方には実践に活かしていただくとともに、各校で還流していただきますよう、お願いします。



アンケートより【一部抜粋】

・笠井課長が何度もお話されていた「伊賀はすごい」「伊賀にはこれだけ文化的・歴史的・芸術的な様々な価値のあるものが残されている」—子どもたちが自分の生まれ育った地域に愛着や誇りをもつことは、子どもたちのアイデンティティの形成や自分の拠り所、自己肯定感の向上に大きく影響するように考えます。「伊賀はすごい」と実感できるような郷土教育・教科学習を目指したいと思いました。【小】

・先日社会で前方後円墳が出てきたので、子どもたちと一緒に古墳を見に行きました。そのときの子ども様子を見ると、とても生き生きとした表情をしていて、そこから社会の授業がとても楽しいと言う子が増えました。実際に体験してみることが、子どもたちの学びを深めたり思い出として残ったりするのだなと思いました。自分自身ももっと伊賀についての知識を増やし、地元が好きだと思えるような子どもたちに育てていきたいです。【小】

・伊賀市で生まれ育ったが、数多くの文化財があることを初めて知った。9月に地域学習があるが、校区にもあるのか詳しく調べたいと思う。部落問題に関する学習では「伊賀水平社」、平和学習では「戦地に赴いた伊賀の人々」などを活用し、私事として考えさせることができたと思った。【中】

・伊賀の歴史や地理について、教科と関連づけられるような資料や史料を学ぶことができて、とてもよかったと思いました。「伊賀のこと」やデジタルアーカイブを使い、子どもたちに伊賀についてもっと興味を持ってもらえるような授業をしていきたいと感じました。また今回の研修で学んだことを学校、学年、教科の先生方と共有し、指導者が伊賀についてのおもしろさや深さを、子どもたちにもっと伝えられるようにしたいととても感じました。【中】